

道の駅「つどいの郷むつざわ」

○一日9000歩、町民が歩くことで自然と「健幸」になれる先進予防型のまちづくり「スマートウェルネスタウン」の中核拠点となる健康支援型「道の駅」として、健康に必要な4要素「食」「憩」「運動」「参加」のメニューを提供。

○健康づくりと地域活性化を一体的に行う、地方創生の拠点として「道の駅」と「定住促進住宅」を官民連携手法により一体整備。

<地方創生拠点としての機能>  
地域センター型

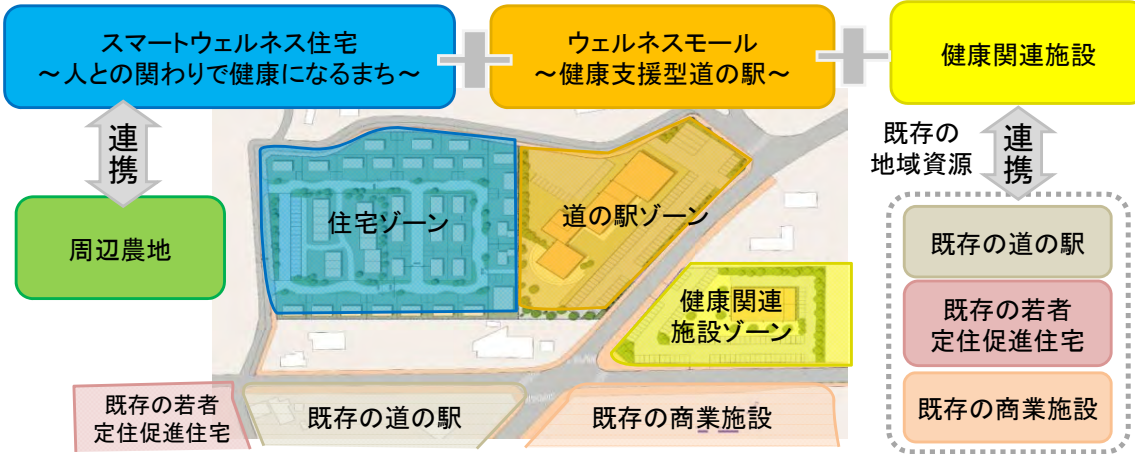
地域福祉 スマートウェルネスタウン	産業振興 地場製品の加工、ブランド化	防災 周辺自治体の後方支援機能	地方移住等促進 住宅整備と定住促進センターの設置
----------------------	-----------------------	--------------------	-----------------------------

- 凡例
- 既存道の駅
  - 既存若者定住促進住宅
  - 拡張道の駅
  - 今回事業区域
  - 住宅拡張検討エリア
  - スマートウェルネスタウンエリア



写真：国土地理院 航空写真（2012年）

駅名	都道府県	設置者	路線	新設/既設	設置年度	種別
つどいの郷むつざわ	千葉県	睦沢町	県道大多喜一宮線	既設	平成16年	単独型



※イメージ図であり、今後、変更があります。

「Smart Wellness City(スマートウェルネシティ)」  
「ウェルネス(健幸: 個々人が健康かつ生きがいをもち、安心安全で豊かな生活を営むこと)」をまちづくりの中核に位置付け、住民が健康で元気に幸せに暮らせる新しい都市モデル。実施により、医療費が年間一人あたり10万円程度抑制された事例もある。(新潟県見附市)

<提案の先駆性・ポイント>

- 道の駅と定住促進住宅を官民連携で一体的に整備し、運営も一元化することでウェルネス住宅(高齢者向け住宅を含む)への支援も含めて、「道の駅」を核に高齢者配食サービスや民間事業者による健康相談などの様々なサービスを提供。
- 温浴施設やフィットネス等のウェルネススペースを付加するなど、健康づくりと地域活性化を一体的に行う、全国的にも新しい「道の駅」。

<実施内容>

- スマートウェルネス住宅と共に定住促進センターの設置
- ウェルネススペースとしてのフィットネスブース、温浴施設の設置
- 産直レストラン・カフェの設置
- 直売・物産施設の設置